

あかげら



撮影者:臨床検査科 菅野 進一



名寄市立総合病院

Nayoro City General Hospital

患者総合支援センター 広報誌

2023年
3月発行
第13号

【目次】

- “地域連携”に思う
- 第4回地域連携会議in名寄
- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは
- お知らせ（がんサロン・ストーマサロン）
- 診療体制一覧



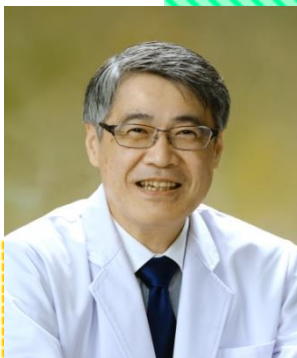


私が医師になった30年ほど前には、社会的入院と称される患者さんが、地方都市内、地方の病院には存在しておりました。病気の治療のためではなく、住まいの当てがない、介護する人がいない、冬期間で家に住めないなどなど様々な理由で入院しておりました。治療と言うより生活のために入院している人が一定数おりました。今もいらっしゃるのかも知れませんが、その後に介護保険制度が施行され、介護施設、様々な居宅サービスが充実し、国をあげての変革の中、病院はあくまで治療する施設という本来の位置付けになったと思います。

平成25年から、当院と道北各地域の病院間では、医療情報共有ネットワーク：ポラリスネットワークを立ち上げ、主に救急患者の情報共有に利用しておりました。令和3年からは、ID-Link、Teamといったシステムを組み込み、今までの病院間の医療情報共有の拡大とスピードの向上、さらに名寄市内の歯科、調剤薬局、介護施設・事業所などを結びつけたネットワークへと進化しました。それにより、当院の位置づけは、道北の救急医療のセンター病院と名寄市内の医療・介護ネットワークの一翼を担う事になりました。患者さんとその近い方に、より希望に添った生活のサポートをし続ける、まさに多職種の中の一つ、名寄市医療介護連携ICTシステムでのそれが私たちの位置付けでしょう。なかでもTeamは、患者(利用者)さんを支える多くの専門職員にとって、瞬時的で強力な情報共有アイテムです。人へのサービスは、良かれと思ってもややすれば“お節介”になりますが、患者情報の綿密な共有で、利用者の方には、気がつかれないまま快適なサービスを提供されているのではないかと思います。令和3年に策定された名寄市自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントガイドラインでは、「住み慣れた地域で利用者が最後まで自分らしく自立した生活を送るため、支えるチームが多職種にわたる連携や協働、地域資源の収集や活用を行い、医療・介護・予防・住まい・生活支援等の多様サービスを提供できるよう」とうたわれています。その目的達成には、この地に住み医療・介護サービスを必要とする方、また提供する多くの職種の方には、このポラリスネットワークは、強力なアイテムでしょう。

名寄市の人口は令和4年12月には26020人で、1960年代の80000人台から60年あまりで1/3以下になり、一方、高齢化（＞65才）率は33%を超えました。今後、2040年に向け、高齢化率は40%を超える事が予想され、人口減少も相まって働き手（支える人）の減少、支えられる人も減りますが相対的に増加という現実は変えようがありません。今後益々ICTで効率よく、快適で適切なサービス提供へ進む事が求められます。さまざまな場面でデジタルトランスフォーメーションは避けて通れない道です。しかし、我々が提供するサービスは、最終的には人と人がつながる必要があり、その現場は機械に譲れません。1人の患者（利用者）さんに、デジタル空間でつながる専門性を持ったたくさんの方の応援が付いている、今後の地域連携のあり方だと思います。

昨年来、会議の場で道内の多くの病院長から、名寄市の医療介護連携ICTが賞賛されております。人口規模も事業を展開、進めやすいといった背景はあると思いますが、多くの職種の方が同じ目標を持っていたことが最も重要だったと思います。他の地域に先駆けた試み、今日より明日、私たちの取り組みを他の地域にも発信し続けたいものです。



病院長 眞岸 克明





令和5年2月10日（金）、「第4回地域連携会議in名寄」が当院体育館にて開催されました。当日は、院内関係者36名、地域の介護関係者47名、計83名と多くの方に参加頂き、「介護サービス再確認！」&「今さら聞けない・・・介護のこれ何？」をテーマに、第1部をシンポジウム、第2部をミニパネルディスカッションの2部構成で進められました。

そこで「第4回地域連携会議in名寄」を終えて、主催である名寄市地域包括支援センターの橋本いづみ所長と、当院の参加者を代表して看護部の日下看護部長よりコメントを頂きましたので、ご紹介させていただきます。

第4回地域連携会議in名寄 を開催して

名寄市健康福祉部こども・高齢者支援室
地域包括支援センター 所長 橋本 いづみ



最初に自己紹介をさせていただきます。

私は保健師として名寄市役所に入職後、保健衛生部門、介護保険係を経て、地域包括支援センターに異動、その後ちょっとした異動を経て、現在は地域包括支援センターで名寄市医療介護連携情報共有ICT事業の事務局としての役目も担っています。

医療介護連携のツールとして、ICTを導入したのが令和3年7月で、利用者・患者さんが過ごしたいところを自分で選択して、自宅でも施設でも最後まで安心して過ごせる地域包括ケアを充実させることを目的としていますが、現在その目的を徐々に達成してきています。

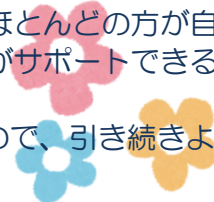
令和3年11月から始まった地域連携会議in名寄は、第2回目、第3回目は新型コロナのため、規模を縮小して、事例に関わる（関わった）医療、介護の関係者限定での事例検討会を開催し、この第3回目までをとおして、市立病院のスタッフの皆さんも介護事業所のスタッフ達も連携していくことがとても大きな力になるという感想を持っていただけたように思います。

第4回目の企画では、もっと介護サービスを知ってもらおうと、介護サービス事業所の紹介やケアマネジャー、訪問薬剤師にご登壇いただいたシンポジウムと、地域包括ケア病棟松本部長と患者総合支援センター高橋課長にもご登壇いただいたのパネルディスカッション形式での開催としました。

市立病院から36名、市立病院以外から47名の計83名の方々にご参加いただき、今回のシンポジウムとパネルディスカッションが、一歩踏み込んだ効率的な連携の仕方を、市立病院の看護師さん達と地域とが一緒に検討していく契機になれば、と思う第4回目でした。

また、医療も介護もお互いの役割やできることを理解しあうことが良い連携のコツ、今回はできるだけICTは抜きにして、あくまでも医療と介護の連携を主軸にし、市立病院のスタッフにもっと介護サービスを知ってもらい、どんな状況・状態の患者さんでもほとんどの方が自宅で過ごしている「わたしたちとことん頑張るの！」マインドで介護サービスがサポートできることを知ってもらえる機会となったのではないかと思います。

来年度も、形を変えながら地域連携会議in名寄を開催する予定ですので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。



第4回地域連携会議in名寄に参加して

名寄市立総合病院
看護部長 日下 玲子



当院は、地域における基幹病院として、救急医療および急性期医療を中心とした医療を展開する病院として位置づけられています。地域における過疎化、少子高齢化が急速に進む中で、医療機関は大きく変化し、それに伴い求められるものも変化していきます。

この地域における高齢化率の推移では、2023年が33.2%、2040年が35.4%に達すると見込まれており、全国平均を上回る数値となっています。家族構成では、65歳以上の高齢者世帯と高齢者1人暮らしが7割を占めています。これらのことから、疾患を持ちながらも、高齢者が可能な限り住み慣れた地域において生活が続けられることが、地域に求められるヘルスケアであると考えます。急性期病院では在院日数の短縮に伴い、入院中に退院に向けた十分な服薬管理や生活指導を行います。

しかしそれらを獲得する前に退院することがあるため、退院後の在宅での服薬管理や食事の管理などができずに、再入院するケースがみられています。当院として必要な看護は、患者が在宅でも自己管理ができるように、入院中と退院後の患者支援の観点から、入院時から地域との連携が図れる体制の構築が課題であると感じています。



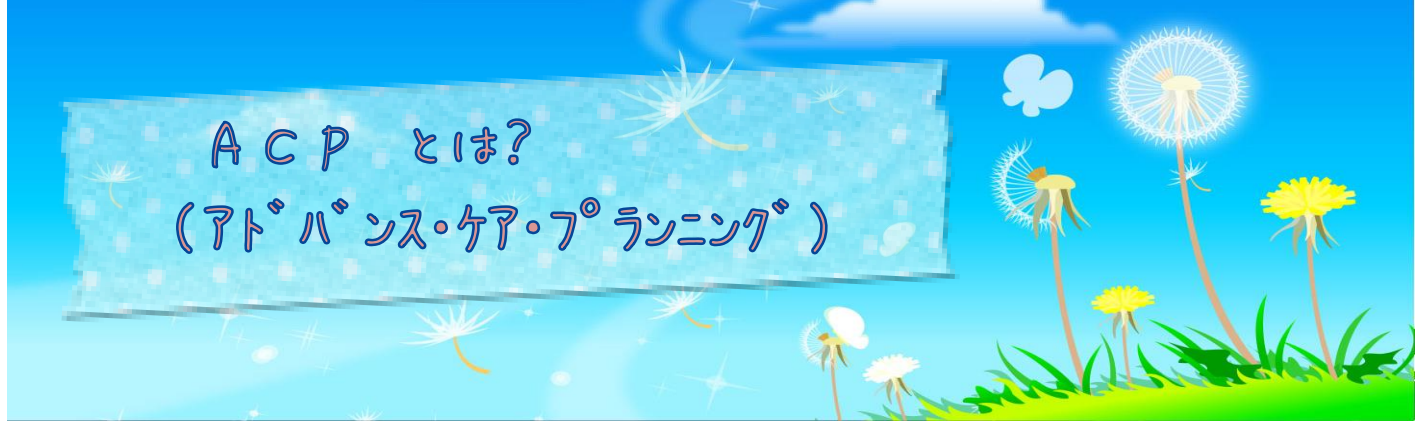
パネリスト伊藤氏より 松本科長

今回地域連携会議に参加し、地域で医療・介護・福祉に携わられている方々からの多くの意見や事例報告をうけ、地域での課題が当院での課題でもあると捉えて、今後も顔の見える繋がりを大切にしていきたいと思います。



ヘルパーさんの貴重なご意見も聞けました





ACP とは? (アドバンス・ケア・プランニング)

医療ソーシャルワーカーの半田実です。今回、心不全療養指導士の資格を取得し、心不全についての知識を深めることができました。これからはより多角的な視点から、医療・福祉を繋ぐ架け橋として、尽力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について

現在、日本では超高齢化社会を迎え、心不全患者が急増する「心不全パンデミック」に直面しています。この道北地域も例外ではなく、名寄市に至っては高齢化率「32.6%(2020年)」と、ほぼ3人に1人は65歳以上の高齢者です。心不全多職種チームでは、「住み慣れた土地で自分らしい生活」を続けていけるようチームとして医療・介護・行政と協働し、サポートしていきたいと考えています。

その一つとしてACPに取り組んでいます。いわゆる「人生会議」と呼ばれ、将来の変化に備え、医療及びケアについて、患者さんを主体にご家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合い、患者さんの意思決定を支援・共有する取り組みのことです。

どうしてそういった取り組みが始まったのか？といいますが、慢性心不全の大きな特徴として“治らない病”であり、管理が不十分であると心不全増悪をくり返してしまいます。そうしたいつ起きるか分からない変化に対して、事前に備えておくことが大切です。

心不全多職種チームでは、今年度で心不全療養指導士が8名になります。その中には、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ・医療ソーシャルワーカーと、様々な専門知識をもつ職種が患者さん一人ひとりに向き合い、ともにACPについて考え、より安心して自分らしい生活を送れるようにサポートしていければと思っています。

※厚生労働省HP 人生会議してみませんか？ 愛称・ロゴマークについて
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html



医療ソーシャルワーカー 半田 実

がん患者・
家族 **サロン**

よりみち茶話会

お知らせ
です

時間：14:00～16:00

場所：2階和室（名寄市立総合病院）

令和5年度 実施予定

	担当
5月25日（木）	リハビリ
7月27日（木）	栄養科
9月28日（木）	医療用ウィッグ試着体験 脱毛時帽子、 爪に優しいネイル等の紹介 株式会社 アデランス
11月30日（木）	がん化学療法認定看護師
令和6年1月26日（木）	薬剤部
3月21日（木）	緩和ケア 認定看護師

ミニ講座の内容は、院内ポスター
市内広報にて周知いたしますので
ご確認ください。



ストーマサロン

時間：14:00～15:30

場所：2階和室（名寄市立総合病院）

日程	担当
8月22日（火）	皮膚排泄ケア認定看護師 水間
令和6年2月27日（火）	皮膚排泄ケア認定看護師 水間



よりみち茶話会、ストーマサロン共に事前申し込みは不要です。
皆様のご参加お待ちしております♪

お問い合わせ：患者総合支援センター担当 納村

診療体制一覧

循環器内科		(初診の予約は連携室経由の紹介のみ。再診は予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	井澤	出張医	豊嶋/出張医	井澤	尾野
	第2診	藤保	酒井	尾野	酒井	豊嶋

呼吸器内科		(初診の予約は連携室経由又は、予約センターで行っています。完全予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	予約	石田	渡邊		森田	永末/出張医
	予約済新患	渡邊			石井	永末/出張医

※当日受診の院内紹介はDr. to Dr. で相談をお願いします。

神経内科		(完全予約制です。初診は紹介状が必要です。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診			※出張医		
	第2診			※出張医		

※毎月第1、第3水曜日のみ

消化器内科		(初診の予約は連携室経由の紹介のみ。再診は予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	再診	鈴木	芹川	鈴木/寺澤	柳原/芹川	宮澤
	初診	柳原	菅井	宮澤	芹川	寺澤

糖尿病・代謝内科		(完全予約制。紹介状の方は連携室経由、健診結果持参の方は予約センターで予約です。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	浅井	浅井	浅井	浅井	浅井
	第2診					

小児科		(1か月健診と予防接種は予約センター、専門外来は小児科外来で予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	平野	室野	室野	室野	平野
	第2診	齊藤	堀井	中村	平野	泉
午後	第1診	泉	齊藤	久保田	堀井	中村
	第2診	齊藤	堀井	中村	平野	泉
1ヶ月健診 予防接種 アレルギー	第1診		久保田	中村	小野田	
	第2診		小野田	久保田		

外科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	再診	竹林/依田	手術	再診	手術	手術
	初診	桑谷		初診		
午後	第1診	手術	手術		手術	手術
	第2診					

※月曜日の初診・再診と水曜日の初診は、午前10時から診療します。
※水曜日の午後は原則予約のみです。

心臓血管外科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	手術	和泉/眞岸 白坂/竹吉	手術	眞岸 白坂/竹吉	手術
	第2診					
午後	第1診	手術		手術		手術
	第2診					

整形外科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	小野沢	村住	小野沢	小野沢	村住
	第2診	村住				
午後	第1診		市原	市原		市原
	第2診					

特殊外来一覧		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
産婦人科 母乳学級	第1診	小野沢	村住	小野沢	小野沢	村住
	第2診	村住				
小児心臓外科 小児神経発達外来 小児内分泌外来 アレルギー外来 ストーマ外来 乳腺外来(乳がん検診)	第1診		市原	市原		市原
	第2診					

脳神経外科		(初診は予約できません。月曜及び水曜は、手術のため休診となります。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診		白井		白井	白井
	第2診		徳光		徳光	徳光
午後	第1診	手術	手術	手術	手術	手術
	第2診					

産婦人科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	産科	中村	大石	今田	野澤	今田
	婦人科	野澤	野澤	大石	今田	担当
午後	産科	(1健のみ)	中村	(1健のみ)	大石	担当
	婦人科	中村	大石/※北村	今田	野澤	中村

※第2週/婦人科・スポーツ支援外来

眼科		(完全予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	南	南	南/※出張医	南	南
	第2診	横山	横山	横山	横山	横山
午後	第1診	南	南	南/※出張医	南	
	第2診	横山	横山	横山	横山	横山

※第2・4水曜日は出張医になります。

耳鼻咽喉科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	齋藤/野澤	齋藤/野澤	齋藤/野澤	齋藤/野澤	齋藤/野澤
	第2診	齋藤/野澤	齋藤/野澤	手術	齋藤/野澤	齋藤/野澤
午後	第1診	齋藤/野澤	齋藤/野澤	手術	齋藤/野澤	齋藤/野澤
	第2診	齋藤/野澤	齋藤/野澤	手術	齋藤/野澤	齋藤/野澤

泌尿器科		(完全予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	山下	出張医	山下/出張医		山下
	第2診	山下	山下	山下	検査/手術	山下
午後	第1診	透析室	透析	透析	透析	透析
	第2診	透析室	透析	透析	透析	透析

皮膚科		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診		出張医			
	第2診	松本	松本	松本	松本	松本
午後	第1診	松本	松本	松本	松本	※大石/出張医
	第2診	大石	大石	大石	大石	大石

※第2・4金曜日は出張医になります。

心療内科・精神科		(初診・再診とも予約できます。午後の再診は完全予約制です。)				
		月	火	水	木	金
午前	再診	泉/今西/野口	今/野口		泉/今西/野口	今/野口
	初診	野口	今西	今/今西	今	野口
午後	再診					
	初診					

※印がついている日は隔週診療

ペインクリニック外来		(初診・再診とも予約できます。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診					宮澤
	第2診					
午後	第1診					
	第2診					

総合内科		(予約は行っていません。)				
		月	火	水	木	金
午前	第1診	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田
	第2診	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田	森田/立川/松田

※発熱外来の陰性患者は、各曜日の担当医で対応
※紹介する場合は、事前に担当医師への連絡が必要
※緊急性のある疾患は、症状により当院各科または他の医療機関へ問い合わせ



名寄市立総合病院

〒096-8511 北海道名寄市西7条南8丁目1番地
http://www.nayoroch.jp

代表連絡先

TEL : (01654) 3 - 3101 (代表)
FAX : (01654) 2 - 0567 (代表)

患者総合支援センター 直通

FAX : (01654) 3 - 3107 (予約専用)
FAX : (01654) 9 - 2111 (退院支援)

